英米文化学会会報

第 78 号　　平成 21 年 2 月 15 日

カリフォルニア州とネヴァダ州の境にある、タホー湖。富士山級の火山の頂上にあるカルデラ湖である。
マーク・トウェインがかつて『西部放浪記』で目指したネヴァダの砂漠に点在する金銀鉱山群は、
選鉱所の建築材や鉄道の枕木、そして燃料としてここから大量に切り出された木材によって支えられた。
現在は植生を回復しつつあるタホー湖周辺の森林。湖の対岸に沈む夕陽に映えて、静かだった。
（撮影：佐野、2006 年 8 月）

目次

◆　例会担当より　　英米文化学会　第 128 回例会および総会のお知らせ
◇　懇親のススメ
◆　大会担当より　　英米文化学会第 27 回大会と発表者募集のお知らせ
◆　分科会担当より　分科会開催報告
◇　英国随想
◆　財務担当より　　財務よりお願い
◆　事務局より　　第 27 回大会（島根県松江市）の宿泊・交通機関等の手配について・他

◆英米文化学会第 128 回例会および総会のお知らせ　　(担当: 小林弘理事)

標記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席下さい。

日時：平成 21 年 3 月 14 日(土) 午後 3 時 00 分～6 時 30 分
(例会受付開始：午後 2 時 30 分)

例会　　場所：日本大学歯学部 3 号館第 7、第 8 講堂　＜ p.4 に地図を掲載＞
(JR 総武線と中央線の御茶ノ水駅から徒歩 2 分また地下鉄丸の内線の御ノ水駅と
地下鉄千代田線の新御茶ノ水駅、地下鉄新宿線の小川町駅から徒歩 3 分)
時間：午後 3 時 00 分～6 時 10 分

総会　　場所：日本大学歯学部 3 号館第 7、第 8 講堂　＜ p.4 に地図を掲載＞
（例会に続いて総会を開催します）
時間：午後 6 時 10 分～6 時 30 分

懇親会　　場所：日本大学歯学部 3 号館地下「いこい」　　時間 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
会費：1500 円
懇親会のみの参加も歓迎いたします。

例会開会挨拶
会長　　小野　昌（城西大学）
（3：00―3：10）

研究発表
１．美容外科手術に踏み出すフェミニスト像
― キャシー・レット『ステッチ・イン・タイム』における ―
（3：10―3：50）
発表　英 美由紀　（お茶の水女子大学大学院）
司会　吉原 令子　（日本大学）

２．聞こえ度の原則から見た英語における頭子音結合の移り変わりについて
（3：50―4：30）
発表　竪谷 宏一　(拓殖大学)
司会　鈴木 明夫　（東洋大学）

――――――――　小休止(4:30―4:40)　――――――

３．シャーロット・ブロンテとヨーロッパ大陸
― 『教授』と『ヴィレット』を中心にして ―
（4：40―5：20）
発表　松原 典子　(中京学院大学)
司会　塚田 英博　(城西大学)

４．ユダヤ系アメリカ人の多様性
― Stanley Sultan, *Rabbi* の描くユダヤ人 ―
（5：20―6：00）
発表　河内 裕二　(明星大学)
司会　君塚 淳一　（茨城大学）

閉会の挨拶
理事長　　石川郁二（法政大学）
（6：00―6：10）

研究発表抄録

１．美容外科手術に踏み出すフェミニスト像
― キャシー・レット『ステッチ・イン・タイム』における ―

英 美由紀（お茶の水女子大学大学院）

現代イギリスの女性向けポピュラー小説（chick lit）は、第二派フェミニズムとの関連において読まれるべきだとする声がある。1960～70 年代の運動の成果を享受する一方で過度の自由を嘆く、現代女性の矛盾した姿が描かれているためである。そうした作家の１人に数えられるのが、キャシー・レット（Kathy Lette）である。レットの『ステッチ・イン・タイム』（*Stitch in Time*, 2005）は、フェミニストの主人公が美容外科手術を受けながら、もとの体を取り戻すべく再手術にのぞむまでの顛末を描く。ここには女性の美容実践をめぐる、第二派フェミニズム以来の思潮の変遷と、それに対するヒロインのアンビヴァレントな思いが巧妙に織り込まれている。

本発表では、フェミニズムにおける女性の身体の政治問題化と、そこでの美容外科の意味づけの変化を追い、それを chick lit というジャンルとの関係において論じる。また作品内に表象される男性身体に、長い間女性と関連づけられてきた美の文化言説の流動化の可能性を読み取る。

２．聞こえ度の原則から見た英語における頭子音結合の移り変わりについて

竪谷 宏一(拓殖大学)

英語はその歴史を通じて、個々の分節音（母音および子音）だけでなく、子音の結合パターンも変化させてきた。例えば、古英語から中英語にかけて見られた /kn-/ といった語頭子音結合は近代英語になるまでに姿を消す一方、“sphere” における /sf-/ など古英語にはなかった新しい音結合が近代英語期に現われた。このように、子音の結合パターンも時代ごとに異なるのである。

本発表では、子音結合の中でも特に語頭に配列される２つの子音の結合を取り上げ、それらが古英語から現代英語に至る英語音韻史の中でどのように移り変わってきたのかを概観する。そして、変化を受けた個々の結合パターンに対して可能な限り分析を行い、その仕組みを明らかにすると同時に、各時代（古英語期・中英語期・近現代英語期）のそれぞれの子音結合が、音節内の音素配列に関する一般的原則である「聞こえ度の原則」に概ね一致していることを示す。

３．シャーロット・ブロンテとヨーロッパ大陸
― 『教授』と『ヴィレット』を中心にして ―

松原典子（中京学院大学）

シャーロット・ブロンテの４つの小説の中で、死後出版された処女作『教授』（*The Professor,* 1957）と遺作といえる『ヴィレット』（*Villette,* 1953）はヨーロッパ大陸を背景にした作品である。26 歳の彼女は学校経営を目指しベルギーに渡り、エジェ塾で学生として、その後その塾で教師として精進した。将来の生きる糧を得るため律した生活は、ヨーロッパ各国の留学生とはまったく異なったものだった。『教授』は帰国直後に、『ヴィレット』は結婚直前に、ブリュッセルでの留学経験からヨーロッパ人をモデルとして描かれた。その中には彼女の唯一の恋愛対象であるエジェ氏が登場していることは間違いないが、彼の存在をカモフラージュするかのように老若男女を問わずその地に生きる人間を批判している。彼女の作品の中で劣等な人間として描かれているヨーロッパ人とヨークシャーの田舎者のシャーロット自身とを対比することで、彼女の中にあるイギリスとヨーロッパとを考察する。

４．ユダヤ系アメリカ人の多様性
― Stanley Sultan, *Rabbi* の描くユダヤ人 ―

河内裕二　（明星大学）

ユダヤ人にはアシュケナジとセファルディという二つの系譜があり、両者はそれぞれ異なった習慣や文化を持っている。アメリカには両系統の人々がいるが、19 世紀末から 20 世紀初頭のユダヤ人大量流入期の圧倒的多数がアシュケナジであったこと、その文化や 2 世、3 世のめざましい社会進出がアメリカに多大な影響を与えたことなどから、アメリカでは「ユダヤ系」＝アシュケナジという構図が出来上がった。文学においても「ユダヤ系作家」はアシュケナジで占められ、少数派のセファルディは全く注目されずに片隅に追いやられてきた。本発表ではセファルディの歴史的背景を踏まえた上で、セファルディ作家 Stanley Sultan の長編 *Rabbi*（1977）を取り上げ、従来のアシュケナジとは違うセファルディの視点で描かれたユダヤ人像を考察することで、これまで見えなかったユダヤ系アメリカ人の多様性を顕在化させる。

＊ 例会会場 日本大学歯学部３号館 第７・第８講堂　（懇親会：日本大学歯学部３号館地下）

最寄り駅：**JR** 中央線・総武線御茶ノ水、都営地下鉄新宿線小川町
東京メトロ千代田線新御茶ノ水、丸ノ内線御茶ノ水、丸ノ内線淡路町

◇懇親のススメ

英米文化学会は、例会の後には懇親会を行っています。ただの食事会のように見えますが、実は色々な機能を持っています。ひっそりと、求人や求職の話しが進行していたり、共同研究を申し込んだり、先ほどの発表時に始まった論争の続きがお酒を飲みながら発展していったり、身の上相談、研究の相談、経験談を謹聴していたりと様々なことが同時進行しています。学会発表の席では言えなかった、聞けなかった、言わば本音の部分が語られるのが懇親会の大事なところ。ですから特に発表者は発表しただけで帰ってしまってはいけませんね。不思議な懇親会。

手元の和英辞典で「懇親会」を調べると、a friendly meeting, a social event などと寝ぼけた訳語が出ていて驚きました。英和辞典だと reception で「宴会」とあるのが、実は懇親会なのに。レセプションとは「受入れる」のでしょう。でも何を？　勝手に拡大解釈すると、参加者自身を歓迎するだけでなく、その意見・見識も平等に受入れることなのだと思います。日本語だと「懇親」の親しくなる面だけが意識されてしまいますが、学術団体である英米文化学会では、レセプションという意味でこの言葉を使っています。学会での公の発表だけがクローズアップされていますが、「懇親会」の果たす機能も、無視できないのです。

今回から実験的に、外部からのケータリングサービスを導入して、懇親会費を劇的に下げてみた背景には、このような学術的（経済的な?）意義を学会としても広めたいと思っていることがあるのです。是非、学術の振興にも役立つ懇親会にご参加ください。

◆英米文化学会第 27 回大会と発表者募集のお知らせ
（大会担当理事：曽村充利）

大会の日時と会場（島根県松江市）は以下のとおりです。
平成 21 年 9 月 12 日（土）　松江テルサ（JR 松江駅前）　大会議室
　受付　14：30～
　講演　15：00～16：30　講演者（予定）大東俊一「小泉八雲の宗教観（仮題）」
　懇親会なし
9 月 13 日（日）松江テルサ　中会議室
　受付　9：30～
　研究発表　10：00～16：00 頃　（発表者の数によって変わります）
9 月 14 日（月）
　エクスカーション（案）　9：00（JR 松江駅）～18：00（出雲空港）
　観光バスを利用して、松江市内（松江城、武家屋敷、小泉八雲旧居、小泉八雲記念館など）、出雲大社などを観光して出雲空港で解散。詳細は次号の会報でお知らせいたします。

上記大会の研究発表者を募集いたします。
ふるってお申し込みをお願いいたします。発表時間は 30 分です。

発表希望の先生は、ご氏名、所属（勤務先）を明記の上、研究発表題名と抄録（400 字）を、ご面倒ですが以下の 2 つのアドレスにメールでお送りください。件名には「英米文化学会大会発表希望」とお書きください。

申込締め切りは 4 月 13 日です。
発表申し込み先：大会担当理事　曽村　充利　CBA08568(at)nifty.com
　　事務局　大東　俊一　ShunichiDaito(at)SES-online.jp

＜おことわり＞
メールアドレスの表記については、＠入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただいております。メール作成のときには、お手数とは存じますが(at)を＠に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

英米文化学会第 27 回大会会場　（松江テルサ）

◆分科会開催報告　　（分科会担当理事：須田理恵）

＜第４回「植物と英米文学研究」分科会＞

●平成 21 年１月 29 日（土）場所：日本大学歯学部　佐藤研究室　時間：18:00～20:00
　　発表者：横山千恵子
　　タイトル「ユニコーンに見られる花」

出席者：塚田、金子、山根、須田、赤瀬、佐藤
発表に対して活発な議論がなされた。

次回　5 月 16 日（土）　18 時より　日本大学歯学部　佐藤研究室
発表者：君塚、塚田

＜第８回発禁問題研究分科会報告＞　（宗形賢二）

●今回 1/24 は、閑田先生から「労働者を危険思想から遠ざけるために―印紙税導入期間の大衆教育―」というタイトルで、イギリスの大衆教育がなぜ、どのようにして妨害されていたかを、歴史的な視点から詳細に解説していただきました。以下にレジュメを添付しましたのでご覧ください。後半の懇親会は、参加者１０名で談論風発、食べ物も含め楽しく充実した会を準備していただいた佐藤先生には感謝申し上げます。

労働者を危険思想から遠ざけるために―印紙税導入期間の大衆教育―

閑田朋子

＜レジュメ＞

本中間報告は、イギリスで 1712 年に印紙税法が導入され、1854 年にすでに１ペニーまで引き下げられていた印紙税が任意になることによって事実上撤廃されるまでの期間を扱い、同期における大衆教育と言論の自由の弾圧を概括するものである。

発行許可制度や事前検閲制度に代わる役割を担って、印紙税は、政府の歳入の増加と同時に言論の自由を規制する目的で、「知識に対する課税」として登場した。印紙税によって、危険思想で労働者を「汚染」する新聞やパンフレットの値段を引き上げ、貧困層の購買を抑制し、発行部数を減少させ、あわよくば廃刊に追い込むことがねらいであった。

このような税が導入される背景には、二つの面がある。出版事情（情報の発信元）と読み手（情報の受け手）の二面である。前者としてはこの期に「危険思想」を媒介するメディアとして大衆新聞の萌芽が、後者としては「危険思想」を受容するだけの大衆の自我と理解力が、生まれ育ちつつあったのだ。「大」衆の言葉どおり、数の上で圧倒的な優位を誇る労働者の団結は支配層にとって脅威であったが、逆に上手くコントロールが可能であれば利用価値も大きかった。

それだけにトーリーやホィッグ、地主層や資本家各支配層、国教会と非国教徒富裕層は、選挙権や穀物法、審査率などに絡むそれぞれの思惑で、労働者を「危険思想」（自らに都合の悪い思想）から遠ざけ、都合の良い情報を刷り込もうと、印紙税導入以外にもあの手この手と様々な手段を講じる。具体的には危険書の発行・売買・読書の禁止、スパイの採用、緘口令の実施、人身保護法の停止や、反逆罪と称する危険思想者の逮捕・裁判、労働者に読み書きを教える是非について論争、日曜学校の相次ぐ設立（それぞれの層にとって都合の良い教育を与えるため）などが上げられる。

＊今後の予定

１）発禁問題研究分科会：
　・日時：３月７日（土）午後４：30～
　・発表者　：門野　泉先生
　・発表内容（予定）：「17 世紀、英国演劇界の上演禁止について」（仮）

◇英国随想　　（理事長　：　石川郁二）

満潮時に開催されるボートレース

干潮時のパットニー橋

Notes of Enjoying the Boat Race 2007

ISHIKAWA, Ikuji

The Boat Race between Oxford University and Cambridge University was held on the 7th of April, 2007. There were two races at 16:00 and 16:30. The main race started at 16:30. It was early spring, and daffodils were in full bloom and cherry blossoms were beautiful.

This world-famous Boat Race began in 1829. As wars sometimes prevented the Race from taking place, it was the 153rd Boat Race then. The orange-painted University Stone on the embankment marks the start, just downstream of Putney Pier, and the Race ends between the stone and the post after a distance of 4 miles and 374 yards, just downstream of Chiswick Bridge. It was the 1845 Boat Race when the fixture came to the Putney-to-Mortlake 'Championship Course' for the first time.

At 14:45 the Thames was closed.

The Isis Goldie Race, starting at 16:00, might be the race of the reserves.

At 16:30, the Boat Race started. The spearhead was a motorboat ridden by the officials and the next were two long narrow boats. More than ten motorboats of broadcasters chased the two speedy white vessels. The two thin white boats strained for victory. Eight crewmen and one cox were on each boat. They pulled the oars and caught the water with precision. They moved straight along like a train on the rails.

All boats hastened towards the upper bridge, making waves. The waves spread widely in the shape of a Victorian lady's unfolded feather fan.

Crash!! The waves began to run high, making toward the paved shore where we stood. Against the surge we stood further back. Again and again the big waves washed up and broke against the embankment, which

panicked people on the riverside.

Why did the waves reach us? When I watched the surface of the river, I found the river full to the concrete riverside with water. About 11:00 a.m. when I had arrived there, the Thames' level was low. A lot of sandbars could be seen on both sides of the river.

After the water was calm, I found floating branches going up the stream slowly. The rising tide! The North Sea was at high tide, which affected this part of the Thames. Around this time, the water didn't flow down to the North Sea. It stagnated or went up. It could be said that the Boat Race took place in a large rowing course or a huge English lock which nature had made.

Prior to the construction of Teddington Locks and Weir, the river was tidal possibly up to Kingston Bridge near Hampton Court Park. There was little difference in river altitude from here to the sea.

Now the Thames ran softly.

There were many men and women standing at the boat-club houses of Oxbridge. Listening to a loud running commentary of the Race, they fluctuated between hope and despair. Just after I passed by the boathouse of Cambridge, the broadcast said, "Cambridge, Cambridge," and still more loudly "Cambridge." "Yaaay!" shouted the people there with joy. Cambridge had won the Race.

Thank you.

◆財務より　お願い　（財務担当理事：山根正弘）

２月２日、年会費３年間未納の会員に文書を発送し、会費納入のお願いを致しました。
前年度および今年度分の納入がお済みでない方も、お振込みをお願い申し上げます。
納入状況は、財務の山根正弘(MasahiroYamane[at]SES-online.jp) にお問合せ下さい。

＜おことわり＞
メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただいております。メール作成のときには、お手数とは存じますが(at)を@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

なお、振替用紙は昨年５月の会報に同封致しましたが、
ゆうちょ銀行・郵便局に備え付けの振込取扱票もご利用できます。

年会費：５，０００円
口座番号：００１６０－７－６１１７７７
加入者名：英米文化学会

◆事務局より　　（事務局担当理事：大東俊一）

＊第２７回大会（島根県松江市）の宿泊・交通機関等の手配について

今大会の宿泊・交通機関に関するお手配は、会員各自にてお願い致します。次号以降の会報にてご案内を致しますが、以下のような宿泊施設、並びに、パック旅行商品があります。

なお、東京からの行程ですと、往路は９月 12 日（土）午前の飛行機にて羽田空港から出雲空港へ、復路は 14 日（月）エクスカーション終了後出雲空港から羽田空港へ、という行程の方が多いと思われます。

大会会場の松江テルサ（松江市朝日町 478－18）はＪＲ松江駅前ですので、駅前もしくは、松江しんじ湖温泉でのご宿泊をお勧め致します。インターネットでの予約の場合には、下記よりも安くなることがあります。

・宿泊ホテル候補

ＪＲ松江駅前

松江東急イン（シングル￥7500～8200）

ホテルアルファーワン松江（シングル￥4300～5200）

ホテルアルファーワン第２松江（シングル￥4300～4700）

松江ユニバーサルホテル（シングル￥4950～）

松江ユニバーサルホテル別館（シングル￥4950～）

松江しんじ湖温泉

ホテル一畑（いちばた）（￥9000～12000）

松江ニューアーバンホテル別館（シングル￥6000～7500）

・パック旅行商品・・・「￥40,000~45,000：シングル」

「ＪＡＬビジネスパック」（株式会社　ジャルツアーズ）

H.I.S（エイチ・アイ・エス）の各商品

上記以外にも、ＪＴＢ、近畿日本ツーリスト、日本旅行など各旅行代理店で扱っております。

＊学会の出版物の刊行

「動物と文化」の分科会の会員による『英文学にみる動物の象徴』（彩流社）が刊行されました。すでにお手元に届いているかと思いますが、書店などでも販売致しておりますので、関係者にご紹介のほど、よろしくお願い致します。

<会員消息>

省略

※前号でアナウンスした、会報のメール化は、技術的な理由で中止となり、従前通りになります。

英米文化学会会報　第 78 号　　編集／発行：英米文化学会　　編集責任者：佐野潤一郎
〒181-0012　東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home)　E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替　加入者名　英米文化学会　口座番号　00160-7-611777
学会ホームページ http://www.SES-online.jp/indexj.html